



やおや 「八百屋」さんってどうしていうの

いろいろな食べ物を売った

野菜売りは、日本では平安時代からありました。かごに乗せて、野菜を売り歩いていたのです。しかし、そのころは、八百屋さんといったかどわかにはわかりません。

17世紀の江戸時代になって、かごで野菜などを売り歩いていた八百屋さんが、店をかまえて、そこで商売をするようになりました。

店をもつと、いろいろな商品をおくことができます。そこで野菜だけでなく、乾物類、海産物、木の実、草の根など、いっさいの食べ物を売るようになったのです。

そこで、野菜屋とか果物屋というのではなく、多くのものを売りますよという意味で、八百屋という名前になったのです。

あおもこのいちば しい 青物市場で仕入れるように

かごで売っていたころは、自分の土地で取れたものをあつかっていましたが、店をもつて売ると、商品がまにあいません。そこで青物市場ができて、八百屋さんはここに行って仕入れ、店で小売りするようになりました。そうして、八百屋とも青物売りともいったようです。青物市場で仕入れるようになってからは、だいたい商品は野菜に限られてきました。

スーパーなどでは、野菜だけではなく、いろいろな商品をあつかっているの、ひと昔前の八百屋さんと同じようです。一方、野菜を中心とした行商は、地方によっては、いまでもつづいています。(監修・保岡 孝之)

